

Medical Management Specialist MMS ニュース

2016

4
月号

●発行/一般社団法人
日本医療経営実践協会
(JMMPA)
〒101-0033 東京都千代田区神田岩本町
4-14
神田平成ビル7F
●編集/日本医療企画
●毎月1回発行(通巻62号)

お問い合わせ先 一般社団法人 日本医療経営実践協会 事務局 TEL.03-5296-1933 FAX.03-5296-1934 http://www.JMMPA.jp/

大会テーマ決定!

第5回「全国医療経営士実践研究大会」名古屋大会

医療経営士が生み出す地域イノベーション —— 新たな医療経営が描く日本の未来像

10月29日(土)・30日(日)の両日にウインクあいち5階ホール(愛知県名古屋市中区)で開催される第5回「全国医療経営士実践研究大会」名古屋大会の大会テーマが決定した。大会運営委員長を務める日本医療経営実践協会東海支部の井手宏支部長から届いたメッセージとともに、今大会の概要を紹介する。

**参加者一人ひとりが地域を見つめ直し
どのような貢献ができるか考える大会へ**

前回の金沢大会では、演題発表の拡大や演題発表者同士によるディスカッション、大会前日に実施された病院見学ツアーなど、新たな試みが奏功し、2日間で述べ400人が参加する活気あふれる大会となった。全国大会は回を追うごとに

その規模や内容の充実を図ってきているだけに、名古屋大会に対する期待も日増しに高まっている。

先ごろ名古屋大会の大会テーマが「医療経営士が生み出す地域イノベーション——新たな医療経営が描く日本の未来像」に決定した。

現在、日本の地域社会では少子超高齢化や人口減少、人材不足など複合的に絡み合う課題の解決に向けて、その地域が持つ強みや特性を活かした新たなイノベーションの創出が求められている。医療経営士には医療機関の外に目を向け、産官学と連携して新しい地域づくりを担う役割も期待される。参加者一人ひとりが地域を見つめ直し、

現在の地域社会では少子超高齢化や人口減少、人材不足など複合的に絡み合う課題の解決に向けて、その地域が持つ強みや特性を活かした新たなイノベーションの創出が求められている。医療経営士には医療機関の外に目を向け、産官学と連携して新しい地域づくりを担う役割も期待される。参加者一人ひとりが地域を見つめ直し、

しながらどのようにしてイノベーションを起

こし、地域に貢献していくかを考える大会とすることを目指す。

大会運営委員長からのメッセージ



井手 宏氏

日本医療経営実践協会東海支部支部長
一般社団法人愛知県医療法人協会会長
医療法人財団愛泉会愛知国際病院理事長

**地域イノベーションをけん引する
リーダーの出現に期待**

2016年10月29日(土)・30日(日)の2日間にわたり、名古屋市にあり「ウインクあいち」において第5回「全国医療経営士実践研究大会」を開催いたします。

2016年度の診療報酬改定では、大病院の選定療養、看護必要度、アウトカム評価、地域包括ケア病棟、在宅専門診療所、機能強化型訪問看護ステーションなど、2025年に向けたロードマップに沿って、その改革が着実に進められている状況にあります。

こうした病院経営を取り巻く環境の変化に即応したマネジメントのプロの証とも言える医療経営士の資格を取得した精鋭が、年に1度全国各地から集い、お互いに磨き合う場が、今年は日本のど真ん中、名古屋の地で開催されます。

大会のテーマは「医療経営士が生み出す地域イノベーション——新たな医療経営が描く日本の未来像」です。日本全国、画一的な医療を国が提供する時代は終わり、これからは地域包括ケアシステムの構築に向けて、地域の実情に適したユニークな医療ビジョンづくりが地域で行われることでしょう。医療経営士が、その地域でのイノベーションをけん引するリーダーたらんとする意思をこの大会の発表から相互に確認しあいたいと思っています。

皆様のご参加を心よりお待ちしております。



大盛況となった金沢大会。今年もより一層の盛り上がり期待される

病院見学ツアーは今大会でも実施予定 大会詳細については順次公開

具体的な大会プログラムや演題発表の発表形式、エントリー方法等については、現在企画・検討中だが、金沢大会で好評だった病院見学ツアーは今大会でも実施予定で、見学先施設の選定が進んでいる。詳細は決定次第、

協会ホームページにて順次公開していくほか、本紙や会員向けメールマガジン等でも情報提供していく。5回目を迎え、さらなるスケールアップが期待される全国大会。多くの医療経営士の参加を待ち望んでいる。

撮影:今寺学

第5回 全国医療経営士実践研究大会 名古屋大会

参加エントリーならびに演題発表登録を開始いたしました。あらかじめご案内いたします。

大会テーマ 決定! 医療経営士が生み出す地域イノベーション —— 新たな医療経営が描く日本の未来像

2016年
10月29日(土)
10月30日(日)

求む! 医療経営士による演題発表

医療経営士による日ごろの実践の成果を発表する場です。多くの医療経営士のチャレンジをお待ちしています。

●会場
ウインクあいち
(愛知県産業労働センター)
名古屋市中村区名駅4丁目4-38
※JR名古屋駅徒歩5分

●大会運営委員長
井手 宏
日本医療経営実践協会東海支部支部長
一般社団法人愛知県医療法人協会会長
医療法人財団愛泉会愛知国際病院理事長

日本医療経営実践協会の林諄理事 東久邇宮国際文化褒賞を受賞

ヘルスケア分野の専門出版と経営人材育成の実績が評価される



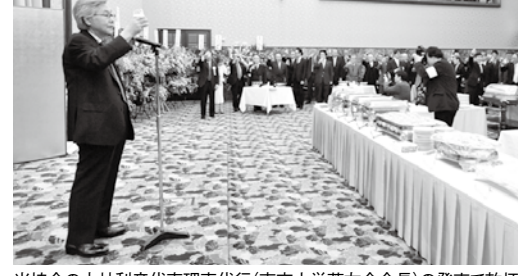
謝辞を述べる林諄理事

今こそ敗戦と向き合って適切な処理を行い
新しい時代を生み出す必要がある

東久邇宮国際文化褒賞は、優れた発明や専門的な事業を通じて、広く社会に貢献した人を顕彰するもので、高松宮賞、秩父宮賞とともに三大宮様賞として知られている。林理事は産経新聞社で通産省、旧厚生省など中央省庁担当の記者を経て、能登企画を創業その後、日本医療企画に社名変更。以来、35年以上にわたり日本初の医療経営の専門誌を発行するなど、ヘルスケア分野を中心とする専門出版に取り組んできた。近年は医療経営士、介護福祉経営士など経営人材育成事業にも注力しており、こうした医療・介護分野での実績が評価された。冒頭、林理事は「私が

受賞を決断したのは本褒賞にふさわしい者だからではなく、第二次世界大戦終戦の処理を見事に成し遂げられた東久邇宮裕彦殿下への尊敬の念があったからです。長年お世話になってきた堺屋太一さんは「現在は第三の敗戦である」と強調されています。第一の敗戦は幕末の馬関戦争、第二の敗戦は第二次世界大戦。そして現在を、戦わずして負けた第三の敗戦と称しておられます。現在の国や地方の状況などに鑑みると、言い得て妙だと感じます。特に医療・介護・社会保障などはわが国の最大の課題ですが、その根底には国、国民が病んでいることがあるのではないのでしょうか。

来賓のあいさつでは、厚生労働省の二川一男事務次官が「35年間、医療経営の重要性を訴え続けてこられた功績が受賞につながったのでしよう。日本医療企画には、本省の広報誌『厚生労働』の企画・編集をお願いしており、非常に好評を博しています。これからもお力を賜りますようお願いいたします」と祝福した。



当協会小林利彦代表理事代行(東京大学薬友会会長)の発声で乾杯

また、日本医師会の横倉義武会長(石川広己常任理事が代読)は、「医療、経営、そして人材育成と多岐にわたる分野で『挑戦と創造』を掲げたその取り組みは、私たちも見習わなければなりません。日本病院会の堺常雄会長は「林社長は『これから地域が中心となる社会』だと常に訴えており、私たちの1歩先を行かれています。これに

追いつき、時代をつくる一端を担っていきましよう」と、医療・介護の再構築と新しい地域づくりに取り組む姿勢を称えた。「感謝のつどい」には政財界ほか各界から林理事と縁の深い150人がお祝いに駆けつけ、熊坂隆光・株式会社産業経済新聞社代表取締役社長、山東昭子・自由民主党参議院議員、名原剛・元日本生命保険相互会社代表取締役副社長らが祝辞を述べた。

研究会の春到来 同じ志を持つ医療経営士が集う 研究会に行こう!

地域支部研究会開催MAP(3月~6月)

九州支部

【福岡】3月26日(土)~
医療広報塾(全5回)
水内純清氏
(元・読売新聞社会部、整理部記者、元・社会医療法人天神会・古賀病院グループ広報部長)
2回目以降→4月23日(土)/5月28日(土)/6月25日(土)/7月23日(土)

【福岡】3月31日(木)
療養型病院の生き残り戦略と戦術
藤井将志氏
(特定医療法人谷田会谷田病院事務局長)

【西九州】4月23日(土)
交渉力を磨こう
チーム医療を成功に導く秘訣(仮)
河本卓也氏
(独立行政法人国立病院機構長崎医療センター経営戦略室、医療経営士2級)

【南九州】4月23日(土)
交渉力を磨こう
チーム医療を成功に導く秘訣(仮)
中村真之氏
(医療法人玉昌会加治木温泉病院薬局長、医療経営士2級)

中国支部

【広島】
準備中

関西支部

【大阪】4月16日(土)~
インベーションを起こせる人材になるための石井ゼミ第2弾(全4回)
石井富美氏
(多摩大学医療・介護ソリューション研究所フェロー)
2回目以降→5月21日(土)/6月25日(土)/7月23日(土)

北海道支部

【札幌】4月23日(土)
定例勉強会(1)
「第4回全国医療経営士実践研究会(金沢大会)発表者講演」
高玉敬洋氏
(JA北海道厚生連帯広厚生病院事務次長)ほか

北陸支部

【石川】5月28日(土)
「機能分化」から「統合」へ~2年後の同時改定を見据えて~
・基調講演「求められる医療・介護の将来像」
~地域包括ケアシステムを構築していくために~
松山幸弘氏(キャノングローバル戦略研究所研究主幹)
・シンポジウム「医療・介護の“統合”とは?」~北陸モデルの構築へ~
神野正博氏(社会医療法人財団董仙会理事長)ほか
※主催:日本医療企画

【宮城】
準備中

東海支部

【名古屋】4月24日(日)
「2016年診療報酬改定を読み解く」
長英一郎氏
(東日本税理士法人副所長、医療経営士1級合格者)

【名古屋】5月7日(日)~
インベーションを起こせる人材になるための石井ゼミ第2弾(全4回)
石井富美氏
(多摩大学医療・介護ソリューション研究所フェロー)
2回目以降→6月18日(土)/7月9日(土)/8月6日(土)

【群馬】5月14日(土)
第2回群馬研究会
木村憲洋氏
(高崎健康福祉大学健康福祉学部医療情報学准教授)

関東支部

【神奈川】6月10日(金)
第6回神奈川研究会
北島明佳氏
(医療法人社団元気会横浜病院理事長)

【東京】4月17日(日)
3級合格者のつどい
~医療倫理とマネジメント
箕岡真子氏
(東京大学大学院医学系研究科医療倫理学分野客員研究員、箕岡医院院長)

※内容等は都合により変更となる場合があります。

医療経営士 中級テキスト2冊、改訂新版 発刊!

●専門講座8『チーム医療と現場力』

●一般講座4『医療ITシステム』

新たな執筆陣により内容を一新! 最新情報、豊富な事例を加え全面改訂!!

編著者に聞く、テキスト改訂のポイント



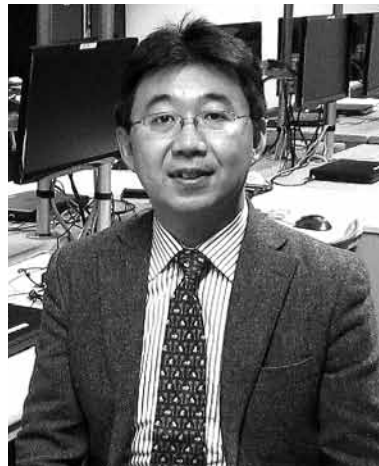
白髪 昌世
広島国際大学医療経営学部医療経営学科 教授
日本医療・病院管理学会理事、日本医療経営学会理事・
編集委員会委員長、医療ビジネス研究部会長、日本診療情
報学会評議員ほか。

医療経営士が活躍するための理念として、「理論と実践」という言葉が掲げられています。そこには、「医療経営士は、医療経営に

「原理」と「原則」を適用して問題を解決するための実行力を備えていなければならない」という意味が込められています。

「チーム医療」の実現・推進に向けた、組織と人材を育む現場ノウハウを集約

る「原理」と「原則」を適用して問題を解決するための実行力を備えていなければならない」という意味が込められています。



瀬戸 僚馬
東京医療保健大学医療保健学部医療情報学科 講師
第13回日本医療情報学会看護学術大会・大会長(2012年)、第16回日本クリニカルバス学会学術集会・副プログラム委員長(2015年)などを歴任。

医療ITは、病院マネジメントの必須ツールへ進化!

わが国の医療ITが全国の病院で本格的に整備され始めたのは、2001年に厚生労働省の保健医療情報システム検討会が「保健医療分野の情報化にむけてのグランドデザイン

とはいえ、医療ITの基盤が十分でなかった今世紀初めは、まずは院内でITを活用するという流れでした。とりわけ、医療事故が社会問題になる中で患者安全を進めるのが喫緊の課題でした。また、2003年にDPC/PDPSが始まり、DPC対象病院の数と電子カルテ導入病院の数はほぼ同じペースで増えてきました。このように病院マネジメントのツールとして医療ITシステムが普及し、そこに一定の貢献

をしてきたことは確かだと思えます。ただ、この15年間で医療費は9兆円も増加し、持続可能な社会の形を探る1つの手段として医療ITへの期待が高まっています。まずは、地域包括ケアを実現するために、医療・福祉の様々なセクターが連携し合う基盤として、地域医療連携情報システムなどを活用するという動きがあります。さらにもう一つは、医療サービスの内容などをデータとして蓄積し、社会に還元してい

元サッカー日本代表・ジョコジャパンのキャプテンを務めた中田英寿選手が、ある食品メーカーの執行役員に就任し、新聞取材を受けた際に「サッカー選手が食品メーカーで経営再建のために何をされているのですか?」との問いに、「社員に対して『組織よりチームになろう』と働きかけています」と答えていました。中田選手の言葉は、組織を作って仕事をやる意義は「役割分担と水平的連携」であり、まさに

こうという動きです。現在、病床機能の分化が加速していますが、こうした議論にもレセプト情報を活用したデータベースが大きな役割を果たしています。このような変化を踏まえ、テキストを全面改訂することにいたしました。医療経営士2級をこれから目指す方々はもちろん、医療経営に携わる多くの方に地域マネジメントに不可欠なツールとなった医療ITの最新の潮流をお届けできればと思っています。

「チーム医療」の重要性を指摘しています。本テキストは7章立てで、第1章から第6章が理論編、第7章が実践編となっています。第7章では経営主体の異なる病院の方々にお願ひして、医療現場のケース事例(16病院18事例)をご提供いただきました。これにより、さらに皆さまの学習成果が上がり、強い組織と人材をつくる「病院風土」の変革とチーム医療の推進に向けた現場力が増すものと確信しています。

このように変化を踏まえ、テキストを全面改訂することにいたしました。医療経営士2級をこれから目指す方々はもちろん、医療経営に携わる多くの方に地域マネジメントに不可欠なツールとなった医療ITの最新の潮流をお届けできればと思っています。

日本医療経営実践協会 推薦図書

会員価格2,419円(税込)

専門講座8

『チーム医療と現場力』

—— 強い組織と人材をつくる病院風土改革

- 第1章 組織とコミュニケーション
- 第2章 職場の改善活動チーム
- 第3章 病院風土と組織文化
- 第4章 医療における組織マネジメント
- 第5章 チーム医療と現場力
- 第6章 チーム医療の推進
- 第7章 医療現場のケース事例



白髪昌世・編著
B5判・並製・224ページ 定価3,024円(税込)
●ISBN978-4-86439-444-4

一般講座4

『医療ITシステム』

—— 診療情報の戦略的活用と地域包括ケアの推進

- 第1章 病院情報システムの概要
- 第2章 病院経営改善のためのIT活用
- 第3章 経営資源としてのITマネジメント
- 第4章 医療ITと保健・福祉の連携
- 第5章 ITが変えるこれからの病院経営



瀬戸僚馬・編著
B5判・並製・160ページ 定価3,024円(税込)
●ISBN978-4-86439-443-7

第17回「医療経営士3級」資格認定試験 結果速報

3級受験申込者、累計15,000人を突破! 今試験の合格者は525人

表1 第17回3級試験および過去試験累計 結果概要

	第17回試験	第1~17回試験累計
申込者数	1,339人	15,234人
受験者数	1,156人	13,550人
合格者数	525人	6,005人
合格率	45.4%	44.3%

表2 第17回3級試験 年代別構成

	受験者数	合格者数	合格率
29歳以下	270人(23.4%)	110人(21.0%)	40.7%
30歳以上39歳以下	449人(38.8%)	206人(39.2%)	45.9%
40歳以上49歳以下	325人(28.1%)	150人(28.6%)	46.2%
50歳以上59歳以下	109人(9.4%)	58人(11.0%)	53.2%
60歳以上	3人(0.3%)	1人(0.2%)	33.3%

表3 第17回3級試験 勤務先別構成

	受験者数	合格者数	合格率
病医院	252人(21.8%)	125人(23.8%)	49.6%
医療関連企業	310人(26.8%)	194人(37.0%)	62.6%
金融機関	434人(37.5%)	146人(27.8%)	33.6%
大学・短大生	12人(1.0%)	2人(0.4%)	16.7%
その他	148人(12.8%)	58人(11.0%)	39.2%

表4 第17回3級試験 都道府県別構成

	受験者数	合格者数
1位 東京都	159人(13.8%)	87人(16.6%)
2位 沖縄県	134人(11.6%)	51人(9.7%)
3位 福岡県	109人(9.4%)	45人(8.6%)
4位 大阪府	73人(6.3%)	29人(5.5%)
5位 鹿児島県	53人(4.6%)	22人(4.2%)

※カッコ内の数値は全体に占める割合。
 小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合がある。
 ※勤務先別の「その他」には、弁護士、税理士等の士業、建設会社等の一般企業が該当する。

一般社団法人日本医療経営実践協会は、2月21日(日)、第17回「医療経営士3級」資格認定試験を全国14会場で実施し、1,156人が受験、525人が合格した。
 今試験の結果詳細について報告する。

〔結果概要(表1)〕
 受験申込者数1,339人のうち1,156人が受験(受験率86.3%)し、525人が合格した(合格率45.4%)。

その結果、第1~17回までの累計受験申込者数は1万5,234人、累計受験者数は1万3,550人、累計合格者数は6,005人となった。

〔年代別構成(表2)〕
 受験者数・合格者数ともに「30歳以上39歳以下」が最多で、「40歳以上49歳以下」が続く。29歳以下の受験者数・合格者数割合も20%以上と高めで、受験者・合格者ともに約9割が49歳以下で占められていることがわかる。合格率では、「50歳以上59歳以下」が53.2%と高かった。

〔男女別構成〕
 受験者数は男性9,744人、女性1,824人。合格者数は男性4,344人、女性91人であった。

合格率は男性44.6%、女性50.0%で、女性の合格率が全体の合格率45.4%を4.6ポイント上回る結果となった。

〔勤務先別構成(表3)〕
 受験者数では、近年増加傾向にある「金融機関」が前回試験に続き最多で、434人と全体の4割近くを占めた。一方、合格率では「医療関連企業」が62.6%と際立って高く、全体の合格率45.4%と比較して17.2ポイントも高かった。続く「病医院」の合格率は49.6%。受験者数が最多だった「金融機関」の合格率は33.6%で、全体の合格率を11.8ポイント下回る結果となった。

〔都道府県別構成(表4)〕
 前回同様、受験者数・合格者数ともに東京都がトップとなった。受験者数では、沖縄県、福岡県、大阪府、鹿児島県が続く。沖縄県や鹿児島県は、金融機関からの受験が多かったことが受験者数・合格者数に影響を与えたものと考えられる。

一方、神奈川県と北海道は受験者数ではランキング外だったものの、合格者数では4位、5位に食い込んだ。

医療経営士3級2級 資格認定試験 受験エントリー 4月4日(月)から!

医療経営士 資格認定試験 日程

試験日 2016年

6 / 19 (日)

■ 受験エントリー期間 4月4日(月)~ 5月10日(火)
 ■ 受験料支払締切日 5月6日(金)

試験対策講座 各地で準備中!
 短期集中で出題範囲のポイント整理を。
 予想問題付き!

試験対策講座のお問い合わせ先
 ㈱日本医療企画 教育・出版事業本部 ☎03-3256-2863

	第18回「医療経営士3級」	第11回「医療経営士2級」
受験料 ※手数料別途	8,640円(税込)	15,400円(税込) 3級取得者 13,400円(税込) 分野受験(分野合格者)
受験資格	年齢、学歴、国籍等の制約はありません	3級資格認定試験合格者かつ、 本会正会員
試験会場 (予定)	札幌・仙台・東京・金沢・名古屋・ 大阪・福岡・鹿児島・沖縄	札幌・仙台・東京・金沢・名古屋・ 大阪・福岡・沖縄
出題科目	1.医療経営史 2.日本の医療政策と地域医療システム 3.日本の医療関連法規 4.病院の仕組み/各種団体、学会の成り立ち 5.診療科目の歴史と医療技術の進歩 6.日本の医療関連サービス 7.患者と医療サービス 8.医療倫理と生命倫理 9.医療に関する最近の動向	[第1分野] 1.医療経営概論 2.経営理念・ビジョン/経営戦略 3.医療マーケティングと地域医療 4.医療ITシステム 5.組織管理/組織改革 6.人的資源管理 7.事務管理/物品管理 8.財務会計 9.資金調達 10.医療法務 11.医療に関する最近の動向 [第2分野] 1.診療報酬制度 2.広報・広告/ブランディング 3.部門別管理 4.医療・介護の連携 5.経営手法の進化と多様化 6.創造するリーダーシップとチーム医療 7.業務改革 8.チーム医療と現場力 9.医療サービスの多様化と実践 10.医療に関する最近の動向

団体受験 ◇受験者10名を超える場合、団体としてまとめてお申し込みできます。
 ◇一定の条件を満たした場合、認定会場制度をご利用できます。 ※審査があります

同僚や知り合いの方にご紹介ください!!